

わが令和六年回想

河村郁子

元旦の祝ひ最中の能登地震 早鐘打つがに心中乱す

相共に華道家元教授へと励みし澄雲さん門前町に居る

三月にわれは卒寿を祝はれる 四日後義兄は黄泉へ旅立つ

七月に亡母の三十三回忌うから揃ひて仏事落着

梅雨明けの前の猛暑に熱中症の警報止むなく保身ファースト

温暖化阻止は当為地球とて生きとし生ける 守り継ぐべき

人類を育み生命を永らへる火の扱ひには倫理あり

原子力も必需の世なれば核兵器廃絶あるのみ人類護らん

拝火教在りても原子力拝む畏敬の念の無きを訝る

被団協のノーベル平和賞受賞 地上くまなく警鐘ひびけ